

第6回ワーキング会議（水郷景観の再生）

（仮称）大江緑道等の個別テーマ検討会

『ワーキング会議』とは、地域のみなさまに集まっていただき、議題を決めて自由に意見を交換し、出てきた様々な意見を、一つの考え方や方向にまとめていく場です。

今回の「第6回ワーキング会議（水郷景観の再生）」では、「アクアワールド水郷パークセンターにおける水郷景観（堀田等）の再生と運営、活用方策」について、平成24年7月及び8月に行いました第4回及び第5回のワーキング会議の議論の結果を、さらに具体的に深めることを目的に開催します。お気軽にご参加いただき、みなさまのご意見をお聞かせください。

自由参加

開催日時：平成24年9月2日（日）

午後1時30分 ～ 約2時間

（開場・受付開始 午後1時）

開催場所：アクアワールド水郷パークセンター内

レストハウス2階（海津市海津町福江566）

議 題：アクアワールド水郷パークセンターにおける
水郷景観の再生について

【議題の概要】

■第4回及び第5回ワーキング会議で議論された「アクアワールド水郷パークセンターにおける水郷景観（堀田等）の再生と運営方法、環境や歴史の学習の場としての活用方策」について、さらに具体的なご意見をお聞きしたいと思います。

■司会進行・コーディネーター

大阪府立大学 大学院 教授・博士(学術)
藤原 宣夫 氏

■プログラム

午後1時00分～：受付
午後1時30分～：開会

アクアワールド水郷パークセンターにおいて水郷景観を再生するための、施設整備や運営、維持管理、活用について討議していただきます

午後3時30分：閉会



～会場へのアクセス～



〔仮称〕大江緑道とは・・・

「国営木曾三川公園（仮称）大江緑道」は、アクアワールド水郷パークセンターと隣接し、前川池および大江川沿いに計画を位置づけられており、周辺の水郷景観や水辺に親しむことのできる公園として計画しています。

大江緑道を整備することによって、

○自然環境や歴史文化への理解の増進

○水辺景観や生物生息・成育空間の保全

○地域の活性化

○河川空間を活かしたレクリエーションの充実

を実現します。

昨年度の検討で、アクアワールド水郷パークセンターにおける概要は、下記のとおりです。

アクアワールド水郷パークセンターでは・・・

■輪中地域のシンボル・活動拠点

- ・地域参画のもとで推進(堀田の再生、義呂池・ハスの有効活用)
- ・自由広場の整備
- ・地場産品、食事提供、レンタサイクル機能の確立

【予告】ワーキング会議の今後の予定

- 平成24年10月20日(土)、21日(日)
ワーキング会議地域社会実験：地域産品の販売等のイベント開催
開催場所：アクアワールド水郷パークセンター レストハウス他を予定
- ワーキング会議（水郷景観の再生、民活地域イベント・物販）：逐次開催
開催場所：アクアワールド水郷パークセンターを予定
- 平成25年1月下旬：平成24年度ワーキング全体会議（テーマ別総括）
- 平成25年2月中旬：ネットワーク全体会議（平成24年度の総括会議）
開催場所：アクアワールド水郷パークセンター（予定）

★すべて自由に参加できますので、ご来場をお待ちしています。



お問合せ先

国土交通省 中部地方整備局 木曾川下流河川事務所 河川公園課
 〒511-0002 三重県桑名市大字福島465 ☎0594-24-5719
<http://www.cbr.mlit.go.jp/kisokaryu/>

第6回ワーキング会議

『「(仮称)大江緑道」を活かした地域づくり』を開催しました！！

地域の人々に親しまれ、さまざまな人々に有効活用される「(仮称)大江緑道」の魅力づくりの方策を検討していくため、地域づくりネットワーク会議を実施しています。

去る平成24年9月2日(日)、大阪大学の藤原教授の司会・進行により、「(仮称)大江緑道」とアクアワールド水郷パークセンターの整備・運営などについて、討議を行った結果を報告します。

■ 第6回ワーキング会議の概要

日 時：平成24年9月2日(日) 13:30～15:30
会 場：アクアワールド水郷パークセンター内レストハウス2階
参加者：海津市とその周辺にお住まいの方 約30名
主 催：国土交通省中部地方整備局木曾川下流河川事務所
共 催：海津市



■ 当日の討議内容

【テーマ：水郷景観の再生について】

- 前回までの意見の確認とアクアワールド水郷パークセンターにおける水郷景観(堀田等)の再生について
- フリー討議
 - ・ 堀田の規模と配置
 - ・ 年間体験プログラムについて(整備、維持管理、その他)

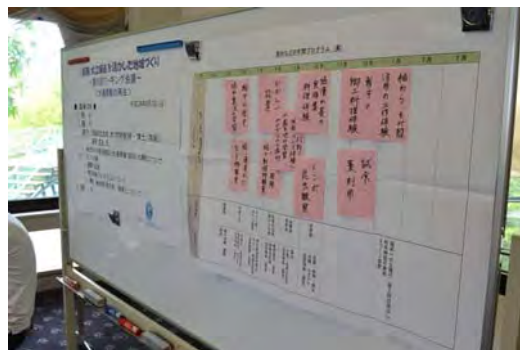
■ 再生堀田の規模や位置、形状等についての意見

- ・ 再生する堀田は、景観面からも、船を浮かべる等の利用面からも、水質浄化の面からも、できるだけ大きいほうが良いという意見が多かった。
- ・ 堀田を再生する場合、水路・掘りつぶれの水質を良くすることが、最も重要だ。
- ・ 掘りつぶれの深さは、オニバス、ヒシ、藻などが舟の航行に支障が出るほど繁茂していた事を考えると、1.5m程度必要だ。また幅は、田舟がすれ違える幅が欲しい。
- ・ 体験農業に必要な規模は、海津歴史民俗資料館(現状は800㎡)の3倍程度ほしい。
- ・ 風景や収穫だけでなく、田植え、稲刈り、はざかけ、くね田などの一連の作業や道具が1つの文化であり、伝承していきたい。
- ・ 堀田の入口側に広場があると、訪れた人が集合しやすい。そこで眺めたり作業もできる。



■堀田の利用や管理についての意見

- ・堀田での稲作で最も大変な作業は、稲の刈り取り作業である。稲刈り、はざかけ等の作業を誰が引き受け、どのように行うかを議論する必要がある。
- ・親子で堀田体験に参加してもらえれば、体験指導に関する人手が大きく軽減できるだろう。
- ・堀田が大きくて維持管理が大変であれば、景観形成のための堀田と、体験学習のための堀田を分けて管理するなどの工夫が考えられる。
- ・堀田での稲作や掘りつぶれの利用、じょれんによる面出しなどの実体験者が高齢化してきている。楽しく伝えていく工夫が必要だ。
- ・苗の準備時期、稲刈りの時期など、地元の人々が維持管理のお手伝いがしやすい時期等の検討が必要だ。
- ・堀田に供給する水については、外来種の移入の懸念や水質維持の面から、昔から用いられてきた井戸による方法がある。
- ・トラクターやコンバインなど、要所で機械をうまく使うことが合理的だ。



■堀田の思い出など

- ・掘りつぶれには、多くの種類の魚や植物が生息していて、底が見えるほど水が綺麗だった。ジュンサイを取って食べていた。
 - ・稲作が終わったあとに畝（くね田）を作って、タマネギやジャガイモなど冬の作物を植えた。
 - ・堀田は、田植え前までは菜の花畑で、かくれんぼをしたり、菜種油を取って売ったりしていた。
 - ・稲刈り時には、さんまの目にわらを通して、わら火で焼いて食べた。
 - ・川で泳いだり、ハスの実や、桑の実、グミ、ヒシ、魚釣り等々、かつては様々な楽しみがあった。
- ・最後に、次回ワーキング会議の日時と討議内容について、次の内容で皆さんの同意を得ました。

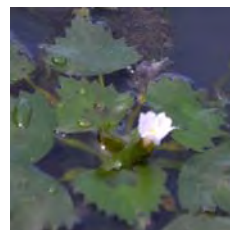
○第7回ワーキング会議：水郷景観の再生について

開催日時：平成24年11月11日（日）13時30分～（受付は13時より）

開催場所：アクアワールド水郷パークセンターレストハウス2階

【討議内容（予定）】

- ・堀田の規模や年間計画について、もっと深く詰めていきます
- ・管理運営組織についての討議をスタートさせます
- ・堀田などを造る際の土や具体的な工法などを議論します



発行：国土交通省 中部地方整備局 木曾川下流河川事務所 河川公園課
TEL：0594-24-5719
<http://www.cbr.mlit.go.jp/kisokaryu/>